



秋田の住宅コンクール

令和5年度第37回秋田の住宅コンクールにおいて、「秋田県建築士事務所協会会長賞」に3年建築科（以下同）・池田大斗さん、「秋田魁新報社賞」に佐々木力輝さん、「秋田県建築士会会長賞」に堀川楓香さん、「佳作」に斉藤羽菜さんが選ばれ、11月18日（土）に賞状が授与されました。「人が集まる住宅」をテーマに高校生部門では13点が応募され、池田さんの作品は部門トップになります。なお、同賞受賞については昨年度から引き続いての快挙となります。



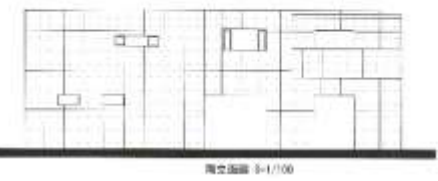
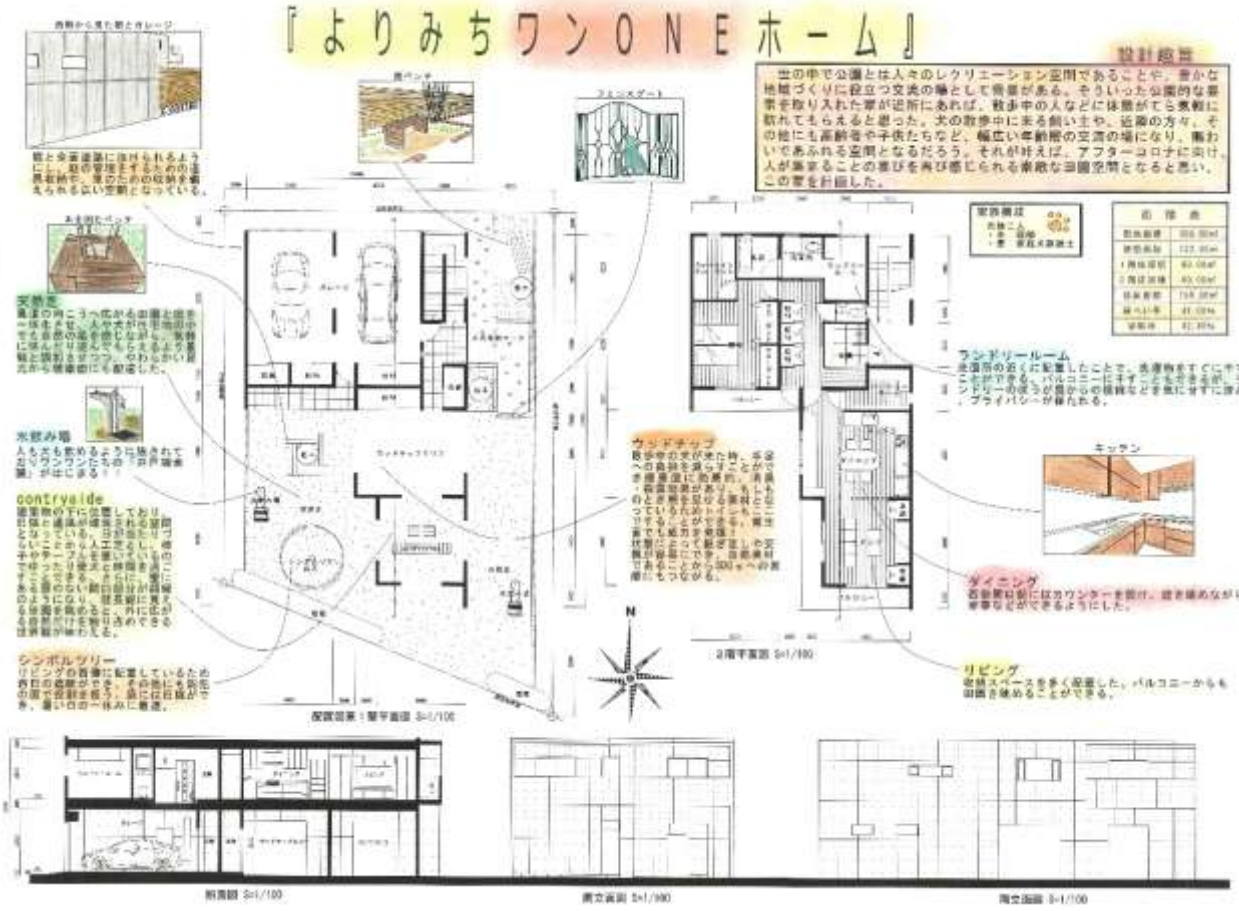
秋田県建築士事務所協会会長賞

『よりみちワンONEホーム』

設計概要

世の中で公園とは人々のレクリエーション空間であることや、豊かな地づくりに役立つ交流の場として需要がある。そういった公園的な要素を取り入れた家が近所にあれば、散歩中の人などに休憩がてら気軽に訪れてもらえると思った。次の取組中にまる創い主や、近隣の方々、その他にも高齢者や子供たちなど、幅広い年齢層の空気の場になり、賑わいであふれる空間となるだろう。それが例えば、アフターコロナに向け、人が集まることの喜びを再び感じられる素敵な空間空間となると思い、この案を計画した。

契約概要		仕様表	
設計者	丸創	敷地面積	200.00㎡
1 業 主	一般	建築面積	127.05㎡
2 業 主	建築士	1階床面積	80.58㎡
		2階床面積	46.47㎡
		延床面積	127.05㎡
		容積率	63.52%
		建築費	42,000円



〈拡大 約 15MB〉

秋田魁新報社賞

本に集う家

CONCEPT

父母共に読書が好きで、その影響で子供（1人）も読書好きに育った。多くの本を所有しているため読まなくなった本も多くあり、どう処分すればいいか悩んだとき、自分たちが読まなくなった本を近所の人たちと共有すれば本を無駄にすることがなく、交流が深められると考えた。アフターコロナに向け、人が集まる家となること、人との関わりを感じられる家となること、息苦しなかったコロナ禍の日々を乗り越え、本と人だけでなく、再び人と人の距離を近づけながら、これまでの日常を呼び戻せるような家となるように計画した。



ブックスペースには大きな階段型の本棚を設置しており、本棚に囲わりながら友達同士、親子、もしくは一人で本を楽しめる。床にはソファやクッションを置き、座ったり寝そべったり自由なスタイルで本を読んだり寝たりすることができる。ゆっくりと時間を過ごすことができる空間としている。和室側ではイベントが開催できるようにし、定期イベント開催を通じて年代毎や年代を超えた交流を促し、アフターコロナにふさわしいコミュニティスタイルの形成を促す。

ブックスペースにゆとりと開放感をもたらせ、本にとって天敵である直射日光を防ぎながら、部屋全体に光が届くようにしている。



2階平面図 1:100

家族構成	
父親	会社員
母親	主婦
子供	小学生

面積表	
敷地面積	303.0㎡
建築面積	180.32㎡
1階床面積	88.41㎡
2階床面積	46.37㎡
延べ面積	135.83㎡
建ぺい率	29.43%
容積率	45.26%

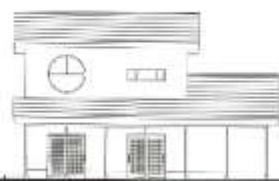


青森県のみせを参考にしており、夏には日差しを防ぎ、冬には吹雪や雪を防ぐことができる。また、道路と隣接を結ぶ登り空間としての機能も備え、春夏秋冬いつでも快適にブックスペースを利用しに来ることができる。右壁の上に椅子を置き、外で自由に時間を過ごすこともできる。

配置図兼1階平面図 1:100



北側立面図 1:100



西側立面図 1:100



断面図 1:100

[〈拡大 約 14MB〉](#)

秋田県建築士会会長賞

- BEFORE -



東立観面 S=1:100

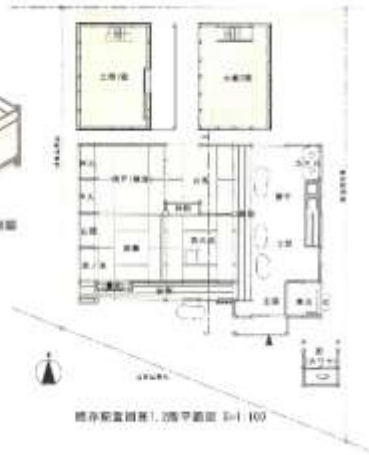
南観面 S=1:100

西立観面 S=1:100

面積表				
新築予定棟				
	1階	2階	延	合計
建築面積	27.22㎡	152.969㎡	4.141㎡	184.330㎡
1階床面積	19.874㎡	151.401㎡	1.420㎡	172.695㎡
2階床面積	17.349㎡	-	-	17.349㎡
延床面積	37.224㎡	152.401㎡	1.420㎡	191.045㎡
既存棟				
建築面積	27.22㎡	154.249㎡	-	181.469㎡
1階床面積	19.874㎡	151.224㎡	-	171.098㎡
2階床面積	-	23.024㎡	-	23.024㎡
延床面積	19.874㎡	174.249㎡	-	194.123㎡



既存観面図



既存新築面1.2階平面図 S=1:100

温故知新

CONCEPT

この住宅を計画するにあたり人が集まり交流を催しやすくなる環境をどうしたらいいのかを考えた。少子高齢化に伴い、世帯数が減少した空き家まわりをリノベーションして活用することで地域の活性化につながると思い計画しました。古民家の特色を最大限に活用しつつ、最新の設備機器と伝統的な建築技法で独自のデザインを楽しむことができます。また、自然保護や環境保全にも貢献することができます。



2階平面図 S=1:100

新築計画1階平面図 S=1:100

和室の一部を洋室に改装し和室と洋室を組み合わせることで、古民家でも長く安心して快適に暮らせる住まいになっています。

通り土間にトップライトを設けることで光と通風を確保することができます。玄関から廊下まで土足でのびのび通り抜けることができることから、狭い廊下の長さを短縮することができます。収納スペースとしても活用できることも通り土間のメリットであり、床で寝ようならのせも室内に収納することができます。



土間の2層部分を解体しカフェ空間として利用。特種の方との交流を促しむることができます。



東立観面 S=1:100

北立観面 S=1:100

南観面 S=1:100

- AFTER -



ベタ基礎にして既存物部を再利用



東立観面 S=1:100

南観面 S=1:100

西立観面 S=1:100

BEFORE [〈拡大 約 12MB〉](#) AFTER [〈拡大 約 15MB〉](#)

佳作

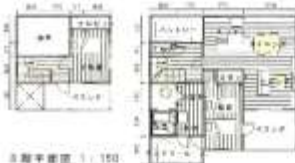
生活に花を添える家

concept

私は趣味のガーデニングを中心に「人が集まる」環境を考へて設計してみました。
 現在の住宅は着々のライフスタイルを重視している傾向が強く、外に対して傾斜がちな地域住民との繋がりが薄れていくように感じています。
 そこで地域のみならず気軽に立ち寄れる空間（庭）を設けて賑わいやすさとまの賑わいを持たせるように考えました。
 庭には、気持をリフレッシュさせる効果や癒しの効果があると言われていず、ここに住む人も、ここに訪れる人も、心が落ち着く空間にしたいと考えました。ガーデニングの作業場やワークショップを開催するスペースとし、売った物の展示や販売ができる場所も用意し、地域住民が集まれる空間を住宅の空間とは別に設けました。別々の空間の間に通り道として容易に開放されており、近隣と庭を繋ぐ場所として思い思いの時間を過ごすことができます。



ワークショップでは、育てた花を使ってドライフラワーやハーバリウムなど色々なものが作れるようになっています。作ったものは、展示・販売ができるようスペースを設けました。裏には、サンルームもあり、日を取り入れるだけでなく、外で育てられない冬の植物でも室内で栽培が育てられるようになっています。



2階平面図 1:150



面積表	
敷地面積	100.50㎡
建築面積	86.40㎡
1階面積	52.34㎡
2階面積	34.06㎡
延床面積	86.40㎡
柱間面積	77.80㎡
柱間率	89.9%
容積率	85.8%

配管室1階平面図 1:150



西側立面図 1:150



東側立面図 1:150



背面図 1:150



ダイニング・テーブル

[〈拡大 約 17MB〉](#)